

今月の PICK UP

『「ナンバー2」の日本史』 本郷 和人／著 早川書房 281 円



大河ドラマ「豊臣兄弟!」によってにわかに注目を集めている豊臣秀長。本書は、兄・秀吉の天下取りを名補佐役として支えた秀長のほか、天皇の外戚として摂関政治を行い栄華を極めた藤原道長、鎌倉幕府において2代の源氏将軍に重用された梶原景時、両大将として兄・尊氏とともに室町幕府を運営した足利直義など、歴史を支えてきた様々なナンバー2たちを取り上げています。

著者いわく、外国に比べて明確なナンバー1が存在せず本格的な下剋上はなかったという日本。その歴史の中でナンバー2に甘んじてきた人物の人となりや功績が解説されています。分かりやすい説明で知識が整理されていき、読むうちに時代の変遷が見えてきます。よく知られた人物の意外な一面も知ることができ、新たな知見が得られる1冊です。

『真鍋博のプラネタリウム』 真鍋 博・星 新一／著 筑摩書房 726.5 円



今年、SF作家・星新一の生誕100年に当たります。生涯で1000編を超えるショートショートを残した彼の本の挿絵の約3分の1を担当したのが、本書の著者・真鍋博です。本書には、その中から集められた挿絵の数々が、本文の冒頭と共に紹介されています。また、この本が作られたいきさつや、タイトルに込められた意味にも触れられています。

ページをめくると、どこか懐かしく見覚えのある挿絵があるのではないのでしょうか。この本と合わせて星新一の作品も読んでみてください。

司書の おすすめ



『レアベジ』 NHK出版／編 藤田 智／監修 NHK出版 626.9 円

レアベジとは、一般に売られていることが少ない、珍しい野菜のことをいいます。青パパイヤやアーティチョーク、カーボロネロ、ヤーコンなど興味をひかれるレアベジが、家庭菜園で作れるよう詳しく紹介されています。食べ方やレアベジに挑戦する農家さんのエピソードも豊富に紹介されており、新しい野菜と出会える楽しみが満載です。



『働くわたし』 本の雑誌編集部／編 本の雑誌社 366.3 円



本書は世代や職種を超えたさまざまな人の「働く」を集めたエッセイです。働くきっかけや仕事の面白さ、失敗、戸惑い、うまくいかない日までも描かれ、働く現実が身近に感じられます。そして、順調に見える人にも迷いや停滞があり、その経験が今の働き方につながっていると語られています。働くことに自信が持てないとき、少し立ち止まりたいとき、新社会人で不安を抱えている人に「それでいいんだ」と思わせてくれる1冊です。

『変わり者たちの秘密基地 国立民族学博物館』

ミンパクチャン／著 榎永 真佐夫／監修 CEメディアハウス 380.6 円

「国立民族学博物館」は、大阪府吹田市万博記念公園内に建つ文化人類学と民族学をテーマとした巨大な博物館。そこには世界中から収集された儀式用具や生活用品、民族衣装や楽器などが展示されています。本著はそれら膨大な数の展示品に携わった研究者たちに焦点をあて、世界中を駆け巡った稀有な経験や、研究と展示に懸けた熱い情熱を記しています。

